

発展問題

1 次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 田子の浦にうちいでて見れば白妙の富士の高嶺に はふり
つつ

② みちのくの のいのちを一目みん一目みんとぞいそぐな
りけれ 斎藤 茂吉

③ いちはつの 咲きいでてわが目には今年ばかりの春行か
んとす 正岡 子規

④ 忍ぶれど色に出てにけりわが恋はものや思ふと人のとふまで
平 兼盛

(注) 高嶺Ⅱ高いみね。高山。
いちはつⅡアヤメ科の多年草で、五月ごろに白やむら
さき色の花をさかせる。

□(1) ①Ⅱ③の短歌について、 にそれぞれあてはまることばを次か
ら選び、記号で答えなさい。

2 次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

① おりたちて今朝の寒さを驚きぬ露しと柿の落ち葉深く
伊藤 左千夫

② 夕焼け空焦げきはまれる下にして氷らんとする湖の静けさ
島木 赤彦

③ 清水へ祇園をよぎる桜月夜こよひ逢ふ人みなうつくしき
与謝野 晶子

④ 夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを のいづこに月宿らむ
清原 深養父

(注) 清水Ⅱ京都府京都市の清水寺付近の地域。
祇園Ⅱ京都府京都市の八坂神社付近の地域。
よぎるⅡ通り過ぎる。
いづこⅡ「どこ」「どちら」の古い言い方。

□(1) ①Ⅱ④の短歌は、いつごろの情景をよんだものですか。それぞれ
あてはまるものを次から選び、記号で答えなさい。
ア 春の夜
イ 夏の早朝
ウ 秋の早朝
エ 冬の夕暮れどき

① ② ③ ④

ア 母 イ 雪
ウ 春 エ 花

① ② ③

□(2) ③の短歌で作者の心情が最もよく表れている表現はどの部分す
か。七字で書きぬいて答えなさい。

□(3) ④の短歌にある「色」の意味として最もふさわしいものを次から
選び、記号で答えなさい。

ア 声色 イ 顔色
ウ 音色 エ 着ている服の色

□(4) ①Ⅱ④の短歌の説明としてふさわしいものを次からそれぞれ選び、
記号で答えなさい。

ア 倒置法や余いんを残す形で、作者の思いの深さがよりいっそう
強調され、印象的な恋愛の歌となっている。
イ くり返しの表現や強調する表現を用いて、はりつめた雰囲気や、
作者のいちずな心情が効果的に表現されている。
ウ 百人一首にも選ばれている有名な和歌で、枕詞などの技法を用
いながら、目の前にひろがるゆう太な自然を写實的に表現している。
エ 対照的なふたつの色を対比させることで、情景をくつきりとう
かびあがらせ、視覚的な印象の強い短歌となっている。
オ 作者の深いかなしみの心情が、さわやかなイメージの情景の中
で静かに表現されることで、よりいっそう胸にしみるものになっ
ている。

① ② ③ ④

□(2) ①の短歌を内容のうえで二つに区切るとすると、切れ目はどこで
すか。後半となる部分をすべて書きぬいて答えなさい。

□(3) ②の短歌では、ふたつのものが対照的に表現されていますが、そ
れは何と何ですか。それぞれ書きぬいて答えなさい。

□(4) ③の短歌で、情景を最もよくあらわしている表現はどこですか。
その部分を三字で書きぬいて答えなさい。

□(5) ④の短歌で、 にあてはまることばを次から選び、記号で答え
なさい。

ア 朝 イ タ ウ 雲 エ 君

□(6) ①Ⅱ④の短歌の説明としてあてはまるものをそれぞれ次から選び、
記号で答えなさい。

ア 秋のさびしい情景に作者の気持ちを重ねて表現している。
イ 少し大げさな表現を使って、時間のたつ速さを強調している。
ウ 独自の感覚による表現と対比で、情景を強く印象づけている。
エ 作者独特の造語で、ロマンチックなイメージをより高めている。

① ② ③ ④

3 次の俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

- ① 蝶々のもの食ふ音の静かさよ
② かつこうや何処までゆかば人に逢はむ
③ 訝して山ほととぎすほしいまま
④ 暑き日を海に入れたり最上川
⑤ 此道や行人なしに秋の暮
⑥ 大空に又わき出でし小鳥かな

高浜 虚子
白田 亜浪
杉田 久女
松尾 芭蕉
松尾 芭蕉
高浜 虚子

(注) 最上川は東北地方の川で、山形県を流れて日本海へそそぐ。

□(1) ①～⑥の俳句の季語と季節(春・夏・秋・冬)をそれぞれ書いて答えなさい。

						季語	季節
⑥	⑤	④	③	②	①		

□(2) ①、②、⑤、⑥で共通して用いられている俳句特有の技法は何ですか。三字で考えて答えなさい。

4 次の俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

- ① 駒ヶ嶽凍て、巖を落しけり
② 行水の捨てどころなき虫の声
③ 梅一輪一輪ほどの暖かさ
④ 名月やうさぎのわたる諏訪の海

前田 普羅
上島 鬼貫
服部 嵐雪
与謝 蕪村

(注) 駒ヶ嶽は長野県と山梨県の間にある甲斐駒ヶ岳を指す。梅はここでは冬にさく寒梅を指す。諏訪の海は長野県の諏訪湖を指す。

□(1) ①、②、④の句の季語と季節(春・夏・秋・冬)をそれぞれ書いて答えなさい。

				季語	季節
④	②	①			

□(2) ①の俳句では「切れ字」が使われていますが、その部分はどこですか。俳句から書きぬいて答えなさい。

--

□(3) ②の俳句で用いられている表現技法を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 倒置法 イ 体言止め ウ 切れ字 エ 比喩

--

□(3) ③の俳句で「ほしいまま」とありますが、この表現から「ほととぎす」のどんな様子が読み取れますか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ひたすらにこだまに聞きいつている。
イ ひたすらに悲しんでいる。
ウ 思ふ存分鳴き声をひびかせている。
エ 思ふ存分飛びまわっている。

--

□(4) ④の俳句の「暑き日」は、実際には何を指していると考えられますか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 真つ赤な太陽
イ 雲にかくれた太陽
ウ さわやかな朝日
エ さびしい夕日

--

□(5) ⑥の俳句の説明として、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 広い大空と、ちっぴけな一羽の小鳥とを対比して自然のゆう大さを表現している。
イ 「又」ということを効果的に使って、次から次へと飛んでいくわたり鳥たちを平然と見つめる作者の心情が表現されている。
ウ わたり鳥の大群を「わき出でし」と表現することで、一年中見なれた風景を印象深いものになっている。
エ 「小鳥かな」という表現などから、作者のわたり鳥への愛情が感じられる句となっている。

--

□(4) ②の俳句で「行水の捨てどころなき」(行水の水を捨てるところがない)と言っている理由を答えなさい。

--

□(5) ③の俳句の「一輪ほどの暖かさ」の意味として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ほんの少しだが暖かい感じがする。
イ とても暖かい感じがする。
ウ 暖かくも寒くもなくちょうどいい感じである。
エ ほとんど暖かさが感じられない。

--

□(6) ④の俳句では、色のイメージを強く残す効果のある表現が用いられています。そのことばを書きぬいて答えなさい。

--

単元 37 の新出漢字

150ページ

暮 ボ／く(れる・らす)
捨 シャ／す(てる)